

2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月30日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 佐々木 勝巳
 コーポレート戦略本部長 TEL 03-3347-9618
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)
(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	34,546	32.3	674	50.7	633	23.6	361	6.6
2019年3月期第1四半期	26,102	△0.3	447	△51.8	512	△49.3	338	△48.2

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △201百万円 (-%) 2019年3月期第1四半期 △839百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	7.97	—
2019年3月期第1四半期	7.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	151,274	65,774	42.5
2019年3月期	152,845	66,771	42.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 64,258百万円 2019年3月期 65,193百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	13.00	—	17.00	30.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	13.00	—	17.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	70,300	28.8	1,600	△16.6	1,600	△17.8	1,100	△16.4	24.29
通期	145,000	28.8	4,900	2.4	4,800	0.5	3,200	2.3	70.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	46,988,109株	2019年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,697,383株	2019年3月期	1,696,864株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	45,291,114株	2019年3月期1Q	45,291,889株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日)の世界経済は、米国・中国の貿易摩擦の長期化、中東や朝鮮半島における地政学リスクの高まり、英国のEU離脱を巡る混乱が続くなど、先行きを慎重視する見方が増えています。日本経済におきましては、輸出や生産の弱さが続いているものの、個人消費の持ち直しなどから緩やかな回復基調が持続していますが、日本の発泡プラスチック業界におきましては、地政学リスクや景気懸念などに加え、原油価格の動向や物流コストの上昇などにより、厳しい経営環境となりました。

このような経営環境のなか、当社グループは前中期経営計画で取り組んだ変革を更に強化すべく、2019年度からの3カ年中期経営計画「Make Innovations Stage-II」を策定し、「事業ポートフォリオの変革」と「収益体質強化に向けた戦略の実行」を進化させるとともに、環境リーディングカンパニーの位置づけを確固たるものにするため、施策を着実に推進しております。また当第1四半期連結会計期間は、前期に買収しましたProseatグループの2019年1月1日から3月31日までの3カ月間の業績を反映しました。その結果、売上高は345億4千6百万円(前年同期比32.3%の増加)、営業利益は6億7千4百万円(前年同期比50.7%の増加)、経常利益は6億3千3百万円(前年同期比23.6%の増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億6千1百万円(前年同期比6.6%の増加)となりました。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<生活分野>

生活分野の売上高は140億1千6百万円(前年同期比4.7%の減少)、セグメント利益は5億6千5百万円(前年同期比172.3%の増加)となりました。

食品容器関連は、スーパーやコンビニエンス向けなどゴールデンウィーク以降の需要に盛り上がりを欠く状況となりました。また農産関連は堅調に推移しましたが、水産関連は、漁獲量の減少により需要低迷が続きました。一方、建材・土木関連では、前期後半に続き競技施設やそれに付随する建築・道路工事など、主に首都圏での物件獲得が寄与し好調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)の売上数量は、汎用食品容器向けは堅調に推移しましたが、前期に好調であった電子レンジ加熱に対応した耐熱食品容器向けの伸長が一巡し前年同期並みとなりました。「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)の売上数量は、盛土用途の需要が好調だったものの、その他の需要は総じて低調となり、前年同期並みとなりました。利益面では、前年度前半は原燃料価格高騰の影響を受け、価格改定に時期ずれが生じ大幅に悪化しましたが、徹底したコスト削減や価格改定に取り組んだ結果、前年同期に比べ増加しました。

大手物流会社と共同で新たに高性能保冷包装容器「飛び箱-X」を開発・上市しました。当社製品の軽量かつ断熱性に優れた発泡素材の特性を活かし、航空便輸送における高いレベルの温度管理ニーズにお応えすることで、温度変化の影響を受けやすい精肉・青果物などを対象に拡販に取り組みます。

<工業分野>

工業分野の売上高は205億3千万円(前年同期比80.2%の増加)、セグメント利益は3億3千8百万円(前年同期比28.3%の減少)となりました。

家電・IT関連では、「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)などを用いた液晶パネル搬送資材用途において、北東アジアを中心に伸長し前年同期を上回りました。一方、「テクポリマー」(有機微粒子ポリマー)は、液晶パネルなどの光拡散用途において、長引く在庫調整の影響が続き、前年同期を下回りました。自動車関連では、「ピオセラン」などを用いた部材用途において、グローバルに採用部位が拡大しました。医療・健康関連では「テクノゲル(ST-gel)」(機能性高分子ゲル)は、貿易摩擦などの影響を受け低調に推移しましたが、「エラスティル」(熱可塑性エラストマービーズ発泡体)は、ランニングシューズのミッドソールに採用され量産化が進みました。Proseatグループの業績については、工業分野に反映していますが、欧州自動車メーカーの販売不振などの影響を受け低調に推移しております。

当社は地球環境の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、生分解性に優れたプラスチックの開発等を進めており、自然環境で分解される生分解性微粒子「テクポリマー」EFシリーズを開発しました。自然環境保全の観点から化粧品用途、塗料用途など、さまざまな用途への展開をはかることも含め、環境リーディングカンパニーとして積極的に貢献していきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、1,512億7千4百万円（前連結会計年度末比15億7千万円減）となりました。資産の部では、現金及び預金の減少などにより流動資産が47億4千6百万円減少しました。また、有形固定資産の増加などにより固定資産が31億7千5百万円増加しました。負債の部では、支払手形及び買掛金の減少や短期借入金の返済などにより、流動負債が68億2千万円減少し、固定負債は長期借入金の増加などにより62億4千7百万円増加しました。純資産は、為替換算調整勘定の減少などにより、9億9千7百万円減少して657億7千4百万円となり、自己資本比率は42.5%となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の増減額の影響などにより、前年同期に比べ25億3千9百万円収入が減少し、21億7百万円の支出となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、貸付金回収による収入の増加や有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ6億6千5百万円収入が増加し、11億7千6百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出の増加などにより、前年同期に比べ24億2千3百万円支出が増加し10億5百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ46億2千3百万円減少し66億4千8百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年4月24日に公表した2020年3月期連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,278	6,654
受取手形及び売掛金	32,915	32,302
電子記録債権	3,541	4,322
商品及び製品	7,937	8,275
仕掛品	1,840	1,953
原材料及び貯蔵品	4,094	3,809
その他	3,279	2,816
貸倒引当金	△60	△55
流動資産合計	64,826	60,080
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,348	17,210
機械装置及び運搬具(純額)	16,556	16,552
土地	21,176	21,185
その他(純額)	5,183	8,425
有形固定資産合計	60,265	63,373
無形固定資産		
のれん	2,152	2,124
その他	1,112	1,057
無形固定資産合計	3,265	3,182
投資その他の資産		
投資有価証券	17,653	17,746
退職給付に係る資産	5,163	5,245
その他	1,726	1,699
貸倒引当金	△55	△52
投資その他の資産合計	24,488	24,637
固定資産合計	88,018	91,193
資産合計	152,845	151,274

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,153	17,750
電子記録債務	8,346	7,867
短期借入金	17,690	13,950
未払法人税等	990	295
賞与引当金	1,056	621
役員賞与引当金	29	10
その他	8,997	8,947
流動負債合計	56,264	49,443
固定負債		
長期借入金	17,540	22,165
退職給付に係る負債	3,212	3,262
製品補償引当金	190	177
その他	8,865	10,451
固定負債合計	29,809	36,056
負債合計	86,073	85,499
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,532	16,532
利益剰余金	22,560	22,152
自己株式	△1,425	△1,426
株主資本合計	54,200	53,792
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,799	8,870
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	190	△345
退職給付に係る調整累計額	524	461
その他の包括利益累計額合計	10,992	10,466
非支配株主持分	1,578	1,515
純資産合計	66,771	65,774
負債純資産合計	152,845	151,274

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	26,102	34,546
売上原価	20,245	27,198
売上総利益	5,857	7,348
販売費及び一般管理費	5,410	6,673
営業利益	447	674
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	160	162
その他	21	47
営業外収益合計	184	210
営業外費用		
支払利息	41	100
持分法による投資損失	0	3
為替差損	0	42
その他	76	105
営業外費用合計	119	252
経常利益	512	633
特別損失		
投資有価証券評価損	—	8
特別損失合計	—	8
税金等調整前四半期純利益	512	624
法人税等	173	280
四半期純利益	338	344
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△17
親会社株主に帰属する四半期純利益	338	361

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	338	344
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,008	71
為替換算調整勘定	△71	△554
退職給付に係る調整額	△98	△63
その他の包括利益合計	△1,178	△545
四半期包括利益	△839	△201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△839	△203
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	512	624
減価償却費	1,018	1,360
のれん償却額	5	58
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	△6
受取利息及び受取配当金	△162	△163
支払利息	41	100
持分法による投資損益 (△は益)	0	3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△414	△434
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△16	△13
退職給付に係る資産負債の増減額	△207	△119
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	8
固定資産売却損益 (△は益)	16	10
売上債権の増減額 (△は増加)	2,308	△542
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△617	△283
仕入債務の増減額 (△は減少)	△921	△1,646
その他	△417	△510
小計	1,142	△1,552
利息及び配当金の受取額	162	163
利息の支払額	△36	△137
損害保険金の受取額	0	0
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△837	△580
営業活動によるキャッシュ・フロー	432	△2,107
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,873	△1,646
有形固定資産の売却による収入	5	10
投資有価証券の取得による支出	△0	△2
貸付けによる支出	△2	△0
貸付金の回収による収入	16	402
その他	13	61
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,841	△1,176
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,197	△1,151
長期借入れによる収入	6,000	5,970
長期借入金の返済による支出	△2,611	△3,754
配当金の支払額	△657	△744
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△58	—
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	—	△1,257
その他	△55	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,417	△1,005
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24	△335
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△14	△4,623
現金及び現金同等物の期首残高	5,117	11,271
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,103	6,648

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

国際財務報告基準を適用している在外子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末において有形固定資産が2,899百万円、流動負債が392百万円、固定負債が2,516百万円それぞれ増加しております。当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、当第1四半期連結会計期間の期首における利益剰余金に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,710	11,391	26,102	—	26,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	778	347	1,126	△1,126	—
計	15,489	11,739	27,229	△1,126	26,102
セグメント利益	207	472	680	△167	512

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△167百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△167百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,016	20,530	34,546	—	34,546
セグメント間の内部売上高 又は振替高	145	37	183	△183	—
計	14,161	20,568	34,730	△183	34,546
セグメント利益	565	338	904	△270	633

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△270百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△270百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセラン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など